



# 常任委員会

4つの常任委員会で議案を審査しました。

- ・紙面の都合上、質疑等の一部を掲載します。
- ・委員会記録は5月下旬にウェブサイトに掲載予定です。

ID 1022724

## 総務委員会

### 中核市移行推進事業について

**Q** 中核市移行による移譲事務の中には専門的な知識が必要な事務内容も含まれている。人材育成の観点から、市としてはどのような対策を考えているのか。

**A** 現在、愛知県と研修のための派遣計画を詰めており、平成31年度からは、獣医師、薬剤師、保健師を県庁と保健所へ研修のため派遣します。また、移行事務に関係する部局の担当者ごとに事務内容の協議を行っており、移行時までにマニュアルを作成することとしています。さらに、平成32年度は、県への派遣の増加や、研修のため県からの出向者の受け入れも検討しています。

**Q** 中核市移行の国への申請について、議案に議案として提出されるまでの今後の流れを教えてください。また、計画進行の中間報告はあるのか。

**A** 平成31年秋を目標に中核市移行計画を作成し、平成32年3月に開催される議会に議案として提出する予定です。また、計画を作成し進め

ていく中で、報告できることがあれば随時委員会でを行います。

### まち・ひと・しごと創生推進会議委員報償費について

**意見** 現在、この会議の委員の20名のうち1名は公募により選任した若者代表の委員となっているとのことであるが、公募による委員をさらに増やしてほしいとの意見があった。

### 運転免許証の自主返納者への支援について

**Q** 運転免許証の自主返納をした人に対しどのような支援をしているのか、また支援内容の変更は検討しているのか。

**A** 現在は2,000円分相当のi-バス共通回数券またはICカードマネカと交通安全啓発品を配付しています。支援についてはタクシー業界や各業種においても割引制度を設けるなど社会全体で取り組む必要があり、免許証の取得実績のない人との兼ね合いもあるため、支援内容の変更は検討していません。

## 福祉健康委員会

### 放課後児童クラブの対象学年拡大について

**Q** 放課後児童クラブの対象学年を6年生まで拡大することによって、今までの利用者が利用できなくなる可能性はないのか。

**A** 学年が低い子どもから優先的に利用できるようにしているため、そういったことは発生しにくいと考えています。

**Q** これにより、待機児童が増えることが考えられるが、今後どのように対応していくのか。

**A** 引き続き、待機児童が多い地域には新たな放課後児童クラブを整備し、解消していきたいと考えています。



### 幼児教育・保育無償化事業について

**Q** 平成31年度の本事業に必要な経費は国が全額負担することだが、平成32年度以降も同様に国の予算措置がされるのか。

**A** 国と地方の協議では、市の全額負担とは

ならない見込みです。

**Q** 民間の保育園より公立の保育園のほうが市町村の負担が大きくなることから、公立保育園の民営化が進むと危惧しているが、どのように考えているのか。

**A** 保育所等の総合施設管理計画では、本事業の影響による民営化は考えていません。

### 風しんに関する追加的対策事業について

**Q** 対象者の年齢からすると、仕事をしている方が多いと考えられるが、抗体検査や予防接種を受けやすい環境づくりをどのようにするのか。

**A** 特定健康診査や事業所が実施する健康診断の機会に抗体検査を行うよう、国から保険者へ依頼すると聞いています。また、市からは市内で夜間や休日に診療をしている医療機関に、当該の時間も抗体検査や予防接種を実施していただくようお願いする予定です。

### 一宮市国民健康保険税条例の一部改正について

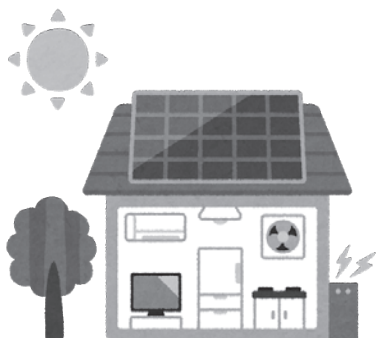
**意見** 保険税の引き上げではなく、一般会計からの法定外繰入で対応すべきと考えるため、賛成できないとの意見があった。

## 経済教育委員会

### 住宅用地球温暖化対策設備設置補助金について

**Q** 平成31年度から、家庭用太陽光発電システムへの補助は、単体での補助メニューから、他の設備との同時設置が条件になったが、その理由は何か。

**A** 家庭用太陽光発電システムで発電した余剰電力について、県の方針が売電から自家消費に変わり、市への県補助金も同様の条件でなければ交付されないよう改正されたこともあって、本市も県と歩調を合わせるためです。



### 5月の連休中のごみ収集について

**Q** 5月3日から5日が月曜日から金曜日に

当たる場合、ごみ収集を行う予定であり、本年は5月3日が該当するが、それによる予算の増加はどれほどになるのか。

**A** 可燃物や不燃物など、各種収集運搬委託料及びリサイクルセンター管理運営委託料の増加分は、合計で約910万円です。

**Q** ゴールデンウィーク中に環境センターへ市民がごみを持ち込む場合はどうなるのか。

**A** ごみの持ち込みは、5月3日から5日までは休場とします。

### 浄化槽設置補助金について

**Q** この事業は、合併処理浄化槽を転換・設置する際に経費の一部を補助するものだが、公共下水道事業計画の区域は除かれている。しかし、その地域に公共下水道が利用可能となるまでの期間が長い場合、浄化槽を設置せざるをえないが、なにか対策は考えているのか。

**A** 補助金交付要綱において、例外として、公共下水道が利用可能となるまでの期間が長い、あるいは計画区域から外れる予定の地域は補助金を交付できると規定しています。したがって、実際に申請があった際には、上下水道部の担当課に確認を行ったうえで受理しています。

## 建設水道委員会

### 通学路カラー塗装について

**Q** 通学児童数20人以上の通学路へのカラー塗装の進み具合と今後の見通しはどうか。

**A** 予定箇所に対して平成30年度で44%、平成31年度で77%を終了し、平成32年度中に完了する見込みです。平成33年度以降は、まだ手をつけていない児童数20人未満の通学路のうち、事故発生件数や車両の通行速度などがわかる交通ビッグデータを活用しながら危険箇所を洗い出し、順次対応していきます。

### 生活道路の交通安全対策について

**Q** 車の速度抑制のための社会実験として、2地区の道路に、道幅を狭める狭さくや人工的な段差であるハンプを設置するとのことである。車がハンプを通過すると、振動や騒音が発生して問題にならないか。

**A** 国が定めた設置の技術基準で、傾斜部の勾配や高さ、平坦部の長さなどが細かく定められています。また、走行実験でも設置前と同程度の振動であったとの結果が出ているため、問題はないと考

えています。施工時には十分注意します。

### ペットボトル飲料「おりひめ」の備蓄について

**Q** 1年間で3万6000本製造するペットボトル飲料「おりひめ」のうち、災害用に備蓄する本数とその期間はどのくらいか。

**A** 毎年6,000本を4年間かけて、合計2万4,000本備蓄していきます。

### 木曽川南派川の伏流水について

**Q** 平成30年度下半期に雨の量が減ったため、木曽川南派川の砂層から汲みだせる伏流水の量が減り、その分、県から賄う水の量が増えた。伏流水の量が減ったのは、木曽川の南派川の河床が本川に比べて高く、木曽川から南派川に水が流れにくいことも関係していると思われるので、早急に対応すべきではないのか。

**A** 河川管理者である木曽川上流河川事務所に、以前から南派川の河床を掘削するよう要望を続けてきましたが、国の平成30年度二次補正予算で対応してもらえるとの回答を得ています。これにより、伏流水の量は回復に向かうと考えています。

※3月時点では新元号が判明していないため、元号は平成で表記しております。